



笑顔は人生の宝

「タカラ」と聞いたら、

皆さんはお酒をつくる会社だと思われるでしょうか。

間違いではありませんが、宝グループが本当につくりたいのは「笑顔」。

たくさんの笑顔で、あなたの人生を満たしたいと考えています。

180年以上にわたり磨き続けている酒づくりの技術も、

世界に広がる日本食材卸のネットワークやお酒の製造拠点も、

再生・細胞医療・遺伝子治療等の革新的なバイオテクノロジーも、

すべては笑顔をつくるため。

例えば、今夜のお酒の席で、ニューヨークの食卓で、

研究や医療の現場でも、あなたを笑顔にするため。

笑顔は人生の宝。

宝酒造、宝酒造インターナショナル、タカラバイオからなる宝グループは

それぞれのユニークな方法で、

世界中を笑顔にするための挑戦を続けます。

Smiles in Life

宝ホールディングス株式会社

宝酒造株式会社 / 宝酒造インターナショナル株式会社 / タカラバイオ株式会社

宝グループの
Vision



目次

宝グループとは

- 01 Vision
- 02 目次
- 03 宝グループのあゆみ
和酒・日本食とライフサイエンスにおける
多様な価値を提供し続ける宝グループの挑戦
- 05 宝グループのひろがり
世界にひろがる宝グループ
- 07 特集1 宝酒造と宝酒造インターナショナルグループとの協業
日本食文化(和酒・日本食)の世界浸透を目指して
- 09 特集2 遺伝子・細胞治療 CDMO事業の成長
保有する独自技術を高度化させながら、その提供先を新しい市場・顧客へ拡大
- 11 宝グループの「いま」
財務ハイライト
非財務ハイライト

価値創造ストーリー

- 13 トップメッセージ
成長・強化領域への投資を加速させ、ビジョン実現に取り組むことで
企業価値向上を実現してまいります。
- 19 財務担当役員メッセージ
資産の効率性向上を通じてキャッシュフローを創出し、成長・強化領域への
投資を加速させ、企業価値向上に取り組んでまいります。
- 21 宝グループの価値創造プロセス
- 23 宝グループの資本
- 25 宝グループのアイデンティティ
- 26 人事担当役員メッセージ
TaKaRa Five Valuesの浸透を通じて多様な人財を育成してまいります。
- 27 長期経営構想「TaKaRa Group Challenge for the 100th」
- 28 宝グループ中期経営計画2025
- 29 事業戦略 宝酒造
- 30 事業戦略 宝酒造インターナショナルグループ
- 31 事業戦略 タカラバイオグループ
- 32 サステナビリティへの取り組み

宝グループのサステナビリティ

- 33 宝グループ・サステナビリティ・ポリシー
- 34 環境
- 40 酒類メーカーとしての責任
- 41 安全・安心
- 43 健康
- 45 人財
- 47 豊かな食生活
- 49 調達
- 50 人権
- 51 コミュニティ
- 52 ガバナンス
- 58 各マテリアリティにおける活動状況
- 59 社外取締役メッセージ

財務戦略・企業情報

- 61 役員一覧
- 63 経営者による財政状態および経営成績の解説と分析
- 67 11ヵ年連結財務サマリー
- 69 連結財務諸表
- 73 主要子会社データ
- 74 投資家情報

編集方針

宝グループレポートは、ステークホルダーの皆様当社グループの企業価値向上に向けた取り組みをお伝えすることを目的に発行しています。今回は特集において、宝酒造と宝酒造インターナショナルグループとの協業、タカラバイオにおける遺伝子・細胞治療とCDMO事業の成長について取り上げました。長期経営構想「TaKaRa Group Challenge for the 100th」のVision実現に向けた総仕上げとして策定した中期経営計画「宝グループ中期経営計画2025」、サステナビリティへの取り組みについてご説明します。宝グループレポートを通して、当社グループが目指す、商品・サービスを通じた社会課題の解決と、成長原資を生み出す「稼ぐ力」の向上を統合した経営をお伝えできればと考えています。

対象範囲:

宝グループ連結(一部単体の数字を含む)

対象期間:

2023年3月期(2022年4月~2023年3月)
※一部2022年以前、2023年4月以降の取り組みも報告しています。

見直しに関する注意事項

この報告書に記載されている、当社および当社グループの現在の計画、見直し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見直しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものです。実際の業績は、様々な要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決などがありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

参照ガイドライン

IFRS財団 国際統合報告フレームワーク
経済産業省 価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス2.0

宝グループのあゆみ

和酒・日本食とライフサイエンスにおける
多様な価値を提供し続ける宝グループの挑戦

宝グループの出来事



1842

創業(四方家4代目卯之助が
伏見・竹中町で酒造業を開始)

1925

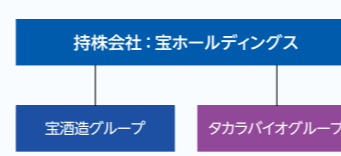
寶酒造(株)
(現 宝ホールディングス(株))設立

1946

社是「三重三慎」を発表



1998

環境報告書「緑字決算報告書」
初刊発行

2002

分社化、持株会社体制に移行。
宝酒造(株)、タカラバイオ(株)設立、
宝ホールディングス(株)へ商号変更

2017

創立90周年を機に
宝ホールディングス歴史記念館
を開設

2017

宝酒造(株)の海外事業を分社化し、
宝酒造インターナショナル(株)
を設立

2020

長期経営構想
「TaKaRa Group Challenge for the 100」
「宝グループ・サステナビリティ・ポリシー」を策定

事業のあゆみ

宝酒造 (国内事業) 国内酒類/調味料/酒精事業

1897 「寶」印の商標をみりん
において登録1977 焼酎復権に向け宝焼酎
「純」を発売1984 国内初の缶入りチュー
ハイ、タカラcanチュー
ハイを発売2001 芋と芋麴でつくる全量
芋焼酎「一刻者」を発売2001 高品質酒の生産拠点とし
て灘に「松竹梅白壁蔵」
が完成2006 辛口チューハイ、タカラ
「焼酎ハイボール」を
発売

2007 極上(宝焼酎)を発売

2011 松竹梅白壁蔵「滞」を
発売2017 地域限定チューハイ
「寶CRAFT」を発売2022 辛口ノンアルコール
チューハイ タカラ「辛口
ゼロボール」を発売

宝酒造インターナショナルグループ (海外事業) 海外酒類事業/海外日本食材卸事業

1951 米国に清酒「松竹梅」の
輸出を開始1983 米国宝酒造を設立し、
米国产「松竹梅」の製
造・販売を開始1986 トマーチン社(英国)の
資産・営業権を取得1992 エイジ・インターナシ
ョナル社(米国)の親会社
AADC社の全株式を
取得1995 北京寛宝食品有限公司
(現宝酒造食品有限
公司)を設立し、中国産
「松竹梅」の製造開始2010 フードテック社(フラン
ス)の株式を取得し、
海外日本食材卸事業に
参入2013 タザキフーズ社(英国)
の経営権を取得2016 ミューチャルトレー
ディング社(米国)を子
会社化。米国に日本食
材卸網を展開2017 ニッポンフード社(オ
ーストラリア)の増資を
引き受け子会社化2020 東京共同貿易(株)の株
式を取得し子会社化

タカラバイオグループ (バイオ事業) 試薬/機器/受託/遺伝子医療

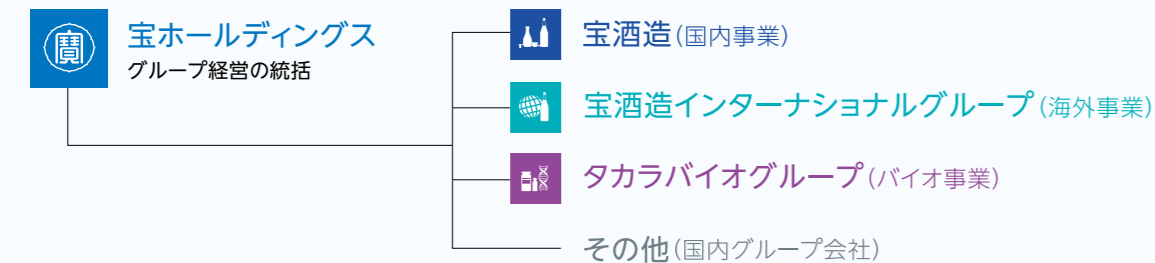
1979 国産初の遺伝子工学
研究用試薬「制限酵
素」を発売
(バイオ事業を開始)1988 PCR法による遺伝子増
幅システムの国内独占
販売権を獲得1993 全世界にわたる広範な
PCR関連特許ライセン
スを取得。中国でバイ
オ研究用試薬の製造
を開始1995 血球系幹細胞に高効
率に遺伝子を導入する
レトロネクテン®法を
開発2004 東京証券取引所マ
ザーズに株式を上場2005 米国Clontech
Laboratories, Inc.
(現Takara Bio USA,
Inc.)の経営権を
取得2014 遺伝子・細胞プロ
セッシングセンター
竣工。CDMO事業を
本格的に開始2016 東京証券取引所
マザーズから同市場
第一部へ市場変更2020 遺伝子・細胞プロ
セッシングセンター
2号棟稼働2020 体外診断用医薬
品「Takara SARS-
CoV-2ダイレクト
PCR検出キット」
製造販売承認
取得

宝グループのひろがり

世界にひろがる宝グループ

宝グループは、酒造業からスタートし、バイオ事業、海外日本食材卸事業まで事業領域を拡大してきました。2023年3月末現在、宝グループは国内12社、海外47社、合計59社(連結対象会社)にまで広がっています。また、地域的にも日本のみならず、欧米・アジア各国で事業活動を展開し、約50%の従業員が海外で勤務しており、グループの人財も多様化しています。

企業概要



宝酒造(国内事業)



独創的で確かな技術に
裏付けられた和酒を提供

主な
事業内容

焼酎、清酒、ソフトアルコール飲料、本みりん、食品調味料、原料用アルコールなどの製造・販売



宝酒造インターナショナルグループ(海外事業)



和酒・日本食を通じて
日本の食文化を世界に拡大

主な
事業内容

酒類・調味料などの輸出および海外子会社での製造販売、海外の日本食材卸会社における酒類・食品などの輸入・販売



タカラバイオグループ(バイオ事業)



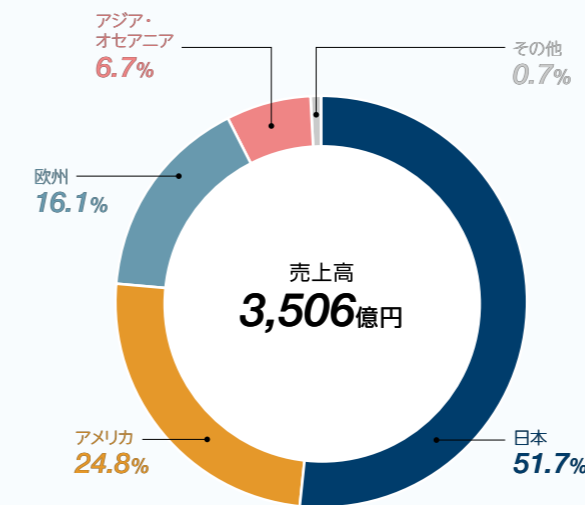
革新的なバイオ技術の開発を
通じて人々の健康に貢献

主な
事業内容

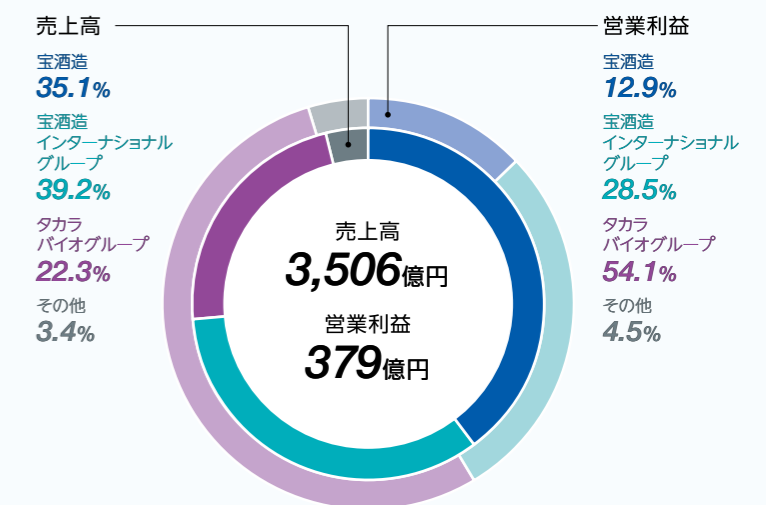
試薬、機器などの製造・販売、受託、遺伝子医療事業



地域別割合



事業別割合



(2023年3月期)

欧州

売上高

564億円

アメリカ

売上高

869億円

日本

売上高

1,812億円

アジア・オセアニア

売上高

234億円

国内外従業員比率 (2023年3月31日現在)

海外
50.4%従業員数
5,171名国内
49.6%



特集1 宝酒造と宝酒造インターナショナルグループとの協業

日本食文化(和酒・日本食)の世界浸透を目指して

宝酒造と宝酒造インターナショナルグループでは、「日本食文化の世界浸透」を推進し、「和酒の世界拡大」と「日本食の世界への拡大」を進めるとともに、これらのシナジーを発揮させるビジネスモデルを構築していきます。

「和酒の世界拡大」に向けては、「技術力」「ブランド力」と、「製造力」「品質力」の2軸で、「日本食の世界への拡大」に向けては、「仕入力」「調達力」と、「物流力」の2軸で成長・強化領域への投資を強化することで、日本食文化の世界浸透を目指します。

日本食文化浸透のビジネスモデル Page.29

和酒の世界拡大

- 「技術力」「ブランド力」
R&D
ブランド育成
- 「製造力」「品質力」
安全・安心への投資
海外製造能力増強

日本食の世界への拡大

- 「仕入力」「調達力」
仕入強化
共同開発
- 「物流力」
拠点拡大
チャンネル多角化

成長・強化領域への投資を強化



宝酒造インターナショナルグループ事業拠点



Smiles in Life

～笑顔は人生の宝～

◆スパークリング日本酒「澪」を生みだした宝酒造の技術力・ブランド力



宝酒造は国内市場において、甲類焼酎、清酒、本みりんの和酒カテゴリーでトップシェアを誇っています。市場ニーズの変化を察知し、約180年の歴史のなかで培ってきた「技術力」や「ブランド力」により、独自の技術で革新的なブランドを生み出してきました。スパークリング日本酒という新たな市場を創造してきた松竹梅白壁蔵「澪」は、世界43カ国(日本を除く)で販売され、海外でも高く評価されており、和酒の世界拡大に向けた中核商品として、SAKEのグローバルブランドへと育成しています。



松竹梅白壁蔵「澪」

◆NIPPON品質基準で、国内・海外で高品質な和酒を製造・販売



左から、輸出専用商品の松竹梅「Kaori」、米産の松竹梅「Classic Junmai」

宝酒造と宝酒造インターナショナルグループは、「製造力」「品質力」を強化し、安全・安心のNIPPON品質[※]基準で、国内・海外で高品質な和酒を製造・販売しています。神戸・灘の「白壁蔵」では欧州のニーズを捉えた松竹梅「Kaori」を製造し、フルーティーな香りとフレッシュな口当たりを実現した輸出専用商品として、新規ユーザーを獲得しています。1983年に設立した米国宝酒造では、現地産の米・水を使った造りを行い、米国最大の生産量を誇る「松竹梅」をはじめ、フルーツフレーバーのSAKEなど現地ニーズに合わせた商品を製造・販売しています。今後も、国内外のニーズを捉えた商品開発に取り組み、和酒の世界拡大を目指します。

※日本において「安全・安心で信頼できて高品質である」と評価され、世界中の人々にも同様の価値を提供できる「宝が約束する日本発・世界標準のグローバルな高品質レベル」のこと



神戸・灘の白壁蔵



カリフォルニア州・パークレーの米国宝酒造

◆仕入力・調達力を強化し、海外日本食材卸網を積極的に拡充



米国ミューチャルトレーディング社は、新たに2社を子会社化し、11州12拠点に拡大



英国タザキフーズ社のオリジナルブランド「Yutaka」

宝酒造インターナショナルグループが米国・欧州・豪州で展開している海外日本食材卸事業では、「仕入力」や「調達力」を活かし、付加価値の高い商品の開発や小売向け商品の拡充と、料飲店への和酒の取り扱いを強化しています。また、「物流力」の強化により、未開拓エリアへの進出など海外日本食材卸ネットワークを積極的に拡充するとともに、料飲店への和酒提案力でシナジーを発揮し、「澪」をはじめとした和酒の世界拡大を図ります。そして、和酒に強みを持つ日本食材卸会社としてのプレゼンスを高め、日本食文化(和酒・日本食)の世界浸透を推進します。



特集2 遺伝子・細胞治療 CDMO事業の成長

保有する独自技術を高度化させながら、その提供先を新しい市場・顧客へ拡大

タカラバイオでは、試薬事業とCDMO事業を両軸とした事業成長を目指しています。CDMO事業では、遺伝子・細胞治療開発の豊富な経験を活かして製薬企業などの遺伝子治療の開発・製造を支援するCDMO事業に取り組んでいます。遺伝子・細胞治療のCDMO事業は、抗体医薬品などのCDMO事業と異なり、小規模な製造スケールながら多様なモダリティ(治療手段)に同時に対応する必要があります。タカラバイオでは、国内最大級の専用施設である遺伝子・細胞プロセッシングセンターを設け、ベクター製造、細胞加工、品質試験、遺伝子解析・検査の分野で多様なメニューを提供し、成長する市場ニーズに応えています。

CDMO事業

製薬企業などから医薬品の製法開発から製造までの工程を受託しています。
※CDMO(Contract Development and Manufacturing Organization)

主要なCDMOサービスメニュー

■ ベクター製造

治療用遺伝子を体内や細胞に運ぶベクターをGMP/GCTP*基準で製造。小規模な試験製造から大規模製造までトータルに支援

■ 細胞加工(細胞製剤製造)

iPS細胞、間葉系幹細胞、CAR-T細胞(遺伝子改変細胞)のような細胞をベースとした治療薬(細胞製剤)の製造

■ 品質試験

製造した遺伝子・細胞治療薬に医薬品として求められる各種試験サービスの提供

■ 遺伝子解析・検査

最新鋭の次世代シーケンサー(NGS)を取り揃えた多様な遺伝子解析・検査サービスの提供

※医薬品や再生医療等製品の製造管理・品質の基準

遺伝子・細胞治療の市場

遺伝子・細胞治療市場の2030年までの年間成長率は、約30%と急速な発展が予想されています。開発を進める製薬企業のアウトソースのニーズも確実に増加しており、遺伝子・細胞治療のCDMO市場についても同様の発展が期待されています。

モダリティ	2020年	2030年	年間成長率
再生医療	2,800億円	2.6兆円	28%
体外遺伝子治療	1,400億円	2兆円	31%
体内遺伝子治療	2,100億円	2.9兆円	30%

出典: 政府 健康・医療戦略推進本部 会議資料(2020年12月23日)

タカラバイオグループの ビジネスモデル

Page.31

タカラバイオは、「遺伝子工学」、「細胞工学」をコア技術とし、大学などのアカデミアなどに試薬、機器、研究受託サービスを提供し、世界のライフサイエンス研究を支援しています。また、積極的な研究開発により、臨床関連分野の新製品やCDMOサービスの開発を進め、健康・医療関連産業支援分野への事業拡大を図り、ライフサイエンス産業のインフラを担うグローバルプラットフォームを目指しています。



国内最大規模の遺伝子・細胞治療のCDMO施設

遺伝子・細胞 プロセッシングセンター2号棟

稼働: 2020年1月

面積: 約14,500㎡

遺伝子・細胞治療薬の製造、品質検査、新規技術開発研究、研究用試薬関連技術開発、製造、ベクター製造、細胞加工、セルバンク保管、GMP無菌充填等



遺伝子・細胞 プロセッシングセンター1号棟

稼働: 2014年10月

面積: 約6,700㎡

ベクター製造、細胞加工、セルバンク保管、GMP無菌充填、細胞検査等

本館研究棟(3F)

稼働: 2015年8月

面積: 約1,200㎡

遺伝子解析業務

mRNAワクチン製造・ 部素材供給への取り組み

コロナ禍では、mRNAワクチンが開発され実用化されました。mRNAは今後、ワクチンに加え、癌などの治療薬としても期待され、開発に取り組む製薬企業が増えています。mRNAは、遺伝子・細胞治療薬と類似技術により製造され、タカラバイオにおいてもCDMO事業の一環として原薬製造の受託に取り組んでいます。

また、mRNAの製造には、修飾酵素と呼ばれる部素材(酵素群)が必要となりますが、タカラバイオでは、これらを医薬品製造用のグレードで大量供給できるよう開発を進めています。

タカラバイオのmRNAワクチン関連の取り組み

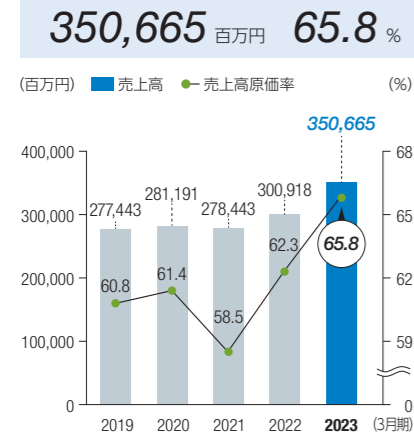
- mRNA原薬のCDMO受託
- mRNA製造に使用する部素材(酵素群)の製造販売



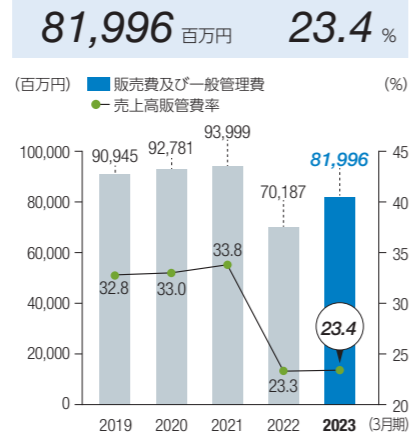
mRNAワクチン開発用の酵素の例
(左) BspQ I (右) Recombinant RNase Inhibitor ver.2.0

財務ハイライト

売上高・売上高原価率



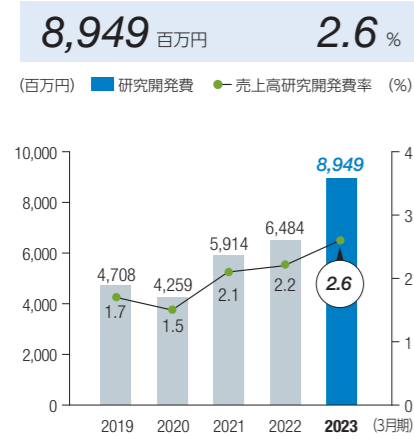
販売費及び一般管理費・売上高販管費率



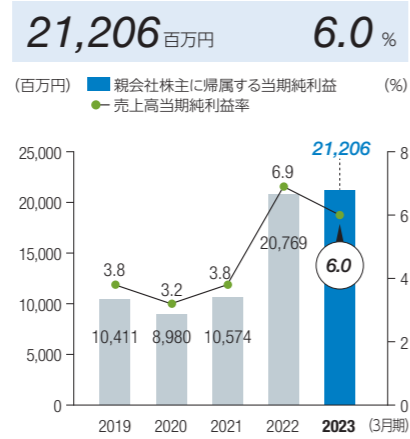
営業利益・売上高営業利益率



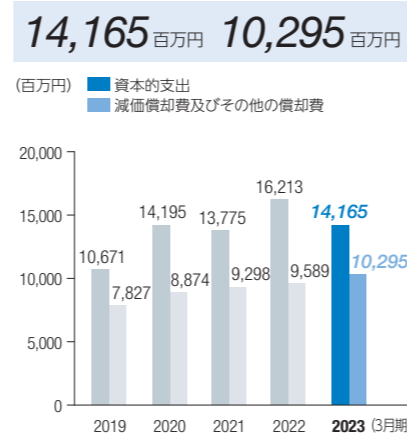
研究開発費・売上高研究開発費率



親会社株主に帰属する当期純利益・売上高当期純利益率



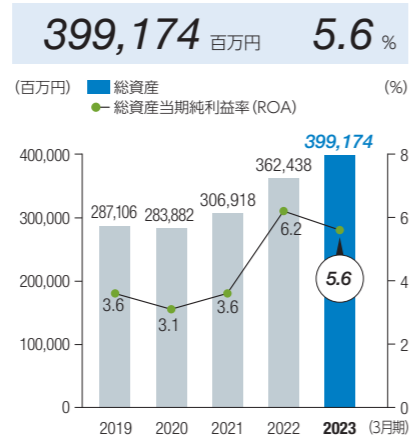
資本的支出・減価償却費及びその他の償却費



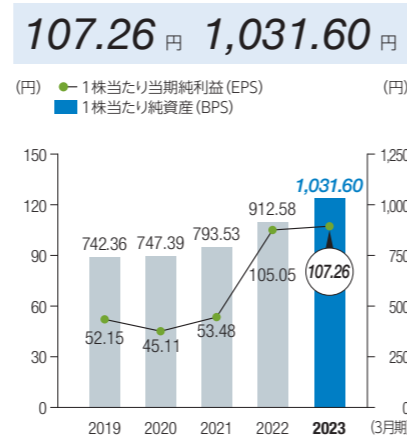
自己資本・自己資本当期純利益率(ROE)



総資産・総資産当期純利益率(ROA)



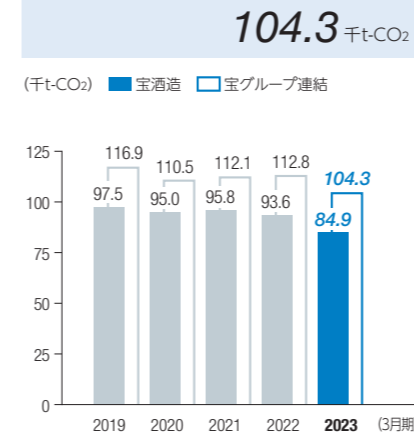
1株当たり当期純利益(EPS)・1株当たり純資産(BPS)



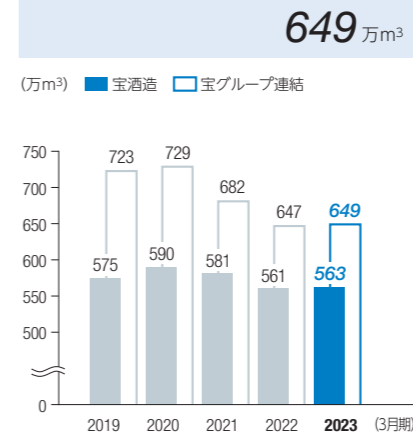
2022年3月期より、「収益認識に関する会計基準」等の適用に伴い、従来販売費及び一般管理費で処理していた費用の一部を売上高から控除しております。
2021年3月期以前の売上高および販売費及び一般管理費は「収益認識に関する会計基準」等の適用前の数字となっております。

非財務ハイライト

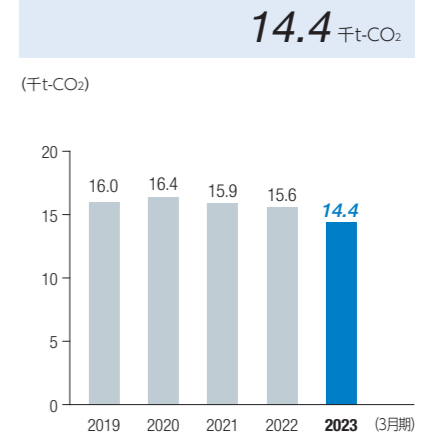
生産工程でのCO₂排出量



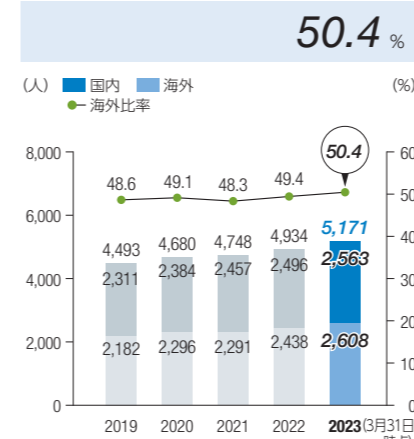
生産工程での水使用量



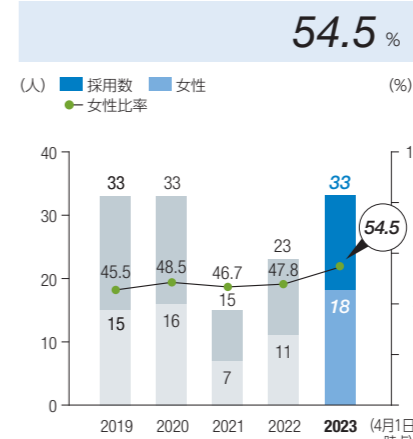
物流工程でのCO₂排出量(宝酒造)



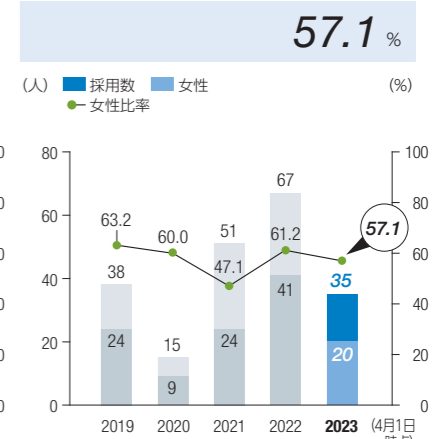
海外従業員比率



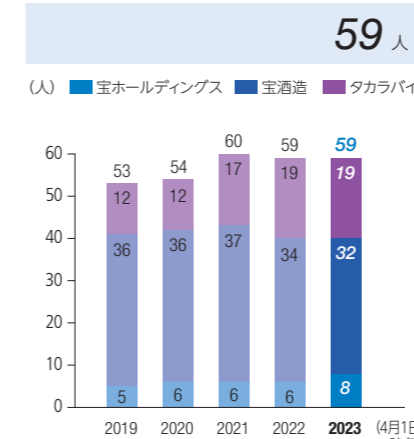
新卒採用者における女性比率



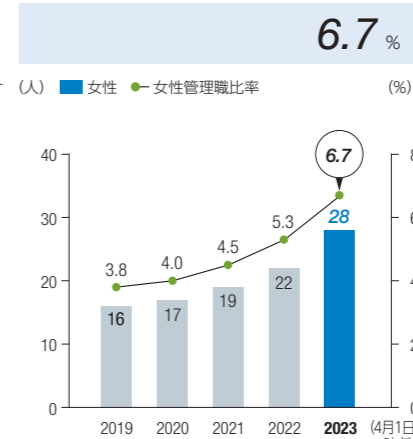
新卒採用者における女性比率(タカラバイオ)



障がい者雇用人数

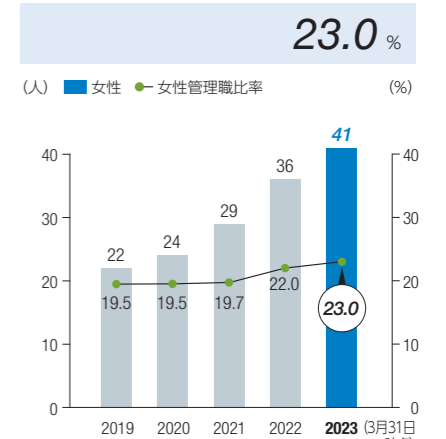


女性管理職比率



※管理職＝課長職以上

女性管理職比率(タカラバイオ)



※管理職＝課長職以上